こでらんに de ふくしま通

1 昭和の息吹
ノスタルジック商店街を歩く

★明治 36 年完成の福島駅。
昭和 37 年まで市民に親しまれました。

❶梨の木とさんかく広場

このあたり、かつては鎮守の森として子どもたちの遊び場でした。吾妻通り拡幅の折も、樹齢 100 年以上の梨の木を残すため、わざわざ車線変更したのです。さんかく広場には、この梨の木を接ぎ木し3本植栽してあります。

❷パセオ470（よんななまる）

パセオ 470 は、平和通り交差点から万世町通り交差点に到る通りで、全長まさに 470m。

以前の呼び名はスズラン通り。本当にスズランのような街燈が灯っていたのです。平成元年、車が飛ばせないようゆるやかな蛇行にし、石を敷いてヨーロッパ風のシャレた通りにリニューアル、この名が付きました。

★昭和 30 年代のスズラン通り

❸福島聖ステパノ教会

東北地方で最初に、ここ福島で伝道が開始されたイングランド系キリスト教の教会で、建造は 1905 年（明治 38 年）。100 年以上前の木造建築でありながら東日本大震災でもビクともしなかったしっかりとした造り。木彫りが施された祭壇や天井のよしず張りも当時のままです。

❹無縁仏供養塔

かつてこの地には慈恩寺がありましたが、昭和 30 年にお墓とともに移転、跡地には NTT ビルが建てられました。しかし、その後も敷地内工事のたびに石塔や仏像が発掘されたことから、NTT 有志や地域の人々で無縁地蔵尊を建立しました。

今では、合格祈願、商売繁盛、お願い事、悩み事等、そっと手を合わせてお祈りすると願い事が叶うといわれ、隠れたパワースポットとして人気になっています。

❺到岸寺

ここ到岸寺には福島市内で最大、2m35㎝の立派な本尊があります。本像は、かつて大仏城（福島城）にあった杉妻大仏を偲んで京仏師に彫らせ、信夫山の大仏堂に安置されていましたが、甚兵衛火事で到岸寺が焼失したため、信夫山から大仏堂ごと移築復元されたものです。現在は「町なかの大仏さま」として人々の信仰を集めています。境内には長野の石工が約 400 年前に作成した「子授け・安産・延命」地蔵様もあります。

❻日本銀行福島支店

福島に日銀出張所ができたのは明治 32 年、東北では初めてのこと。当時、福島は全国有数の生糸産地として栄え、江戸や京都との取引も活発に行われるなど東北経済の中心地でした。営業開始日には、駅前から十数台の馬車に現金が積まれ運ばれたとか。写真の日銀福島支店は、大正2年に東京駅なども手掛けた辰野金吾氏により設計されたもので、レンガ造りで格調高い外見は、福島市民に長い間親しまれていました。

★旧日本銀行福島支店

❼福島のまちなかを走っていたチンチン電車

かつて福島にはチンチン電車が走っていました。これは福島市を中心に伊達地方の養蚕が盛んだったことから、軌道で物資や人を運ぶ必要があったからです。生活に欠かせない地域住民の足として活躍しましたが、高度経済成長期のモータリゼーションの進行により、昭和 46 年 4 月に全線廃止となりました。現在、レンガ通りの歩道には、当時の面影を残す絵入りタイルが嵌め込まれています

★最後を飾った花電車

❽まちなか広場

この広場、時代時代で役割を変えてきました。江戸時代には大名が参勤交代で宿泊する本陣が置かれ、明治 20 年には信夫警察署（のちの福島警察署）。昭和 2 年には福島ビルヂング（通称福ビル）が建ち、県下初のエレベーターが設置され見学者が引きも切らなかったとか。その後、一時的にスーパーができましたが、今では市民がイベントなどで活用する広場となったのです。

★福ビル（昭和6年）